

# 河道掘削（今町地区）の進捗状況

○当該区間の護岸は、河岸侵食により平成29年度に根固工を設置し、堤防機能確保を図ってきましたが、令和元年東日本台風では、上流側の砂州の拡大に伴い、護岸が水衝部となりました。  
○護岸の復旧のみでは当該箇所の水衝部は解消されず、同規模の出水が起きた時には同様の被災が起こりうるため、砂州を掘削し、当該地点付近の河積を増大させることによって、水衝位置における高速流を低減させます。



項目	進捗状況
用地 〔土地所有者・関係人数全体に対する契約済の割合〕	該当無
工事 〔総土量に対する掘削土量の割合〕	100%



対策イメージ

**掘削前**

砂州が発達し固定化の傾向あり。河岸に局所的水衝部が発生

河床低下・平均最大流量減少により中州が拡大化傾向  
⇒みお筋の深掘れを助長している

**掘削後**

砂州の固定化を解消し、河岸での水衝緩和

洪水時に砂州が移動(侵食)  
⇒みお筋の深掘れが緩和  
⇒砂州侵食による土砂供給等

**水衝部の固定化**

- ・河岸(左岸側)へ流れが偏流  
⇒水衝部で根固工被災  
⇒堤防侵食による破堤リスク増大
- ・砂州の拡大化  
⇒流下能力低下が懸念  
⇒みお筋の深掘れを助長

**河道整正で主流の切換(制御)再度災害防止**

- ・流れを分散し一方の河岸に集中させない(水衝部の解消)
- ・樹林化の抑制